官克豫上 哇?た で 月をほって 民に期まれ 島はが 挨走屋* 以いた 拶き旅;次。 -心;舉。 上景海沈日本 田た歸き行きの 館刻即包 團だん カン げ 外台よ 氏し 島がは 0 た 佐。の 宮ま 大に同ちり 7 K 四 0 め 藤多雨 中で感染の 成的隐线八 豫は日定の 1 日本 本性 倉台 氏儿 及計劃等海流功;東等日本 る 社は即は 百 丸智 が原が U 外がに 京意まで E 便ど To を氏し 今だ 70 た 新出 同ちて 大た 船党 あ 來さの 宿營 胞は殊を會意開於昨常 る 訪赏案為 で 氣等 日号 又を敬えて 御堂 は 催言 年な

布~

内意小口

松



本時歸書八 氏 支し高。氏「日こる 愛問。 な 軍 金.a 配は商物は 0 支 作; にす 0 る 鎌雪店で店で 戰 代於身上岡家倉台任於惜事性的在於日本 歸きる 部等 副 同等任作几 倉台の 理》 別で各党任党に 。氏」の決点丸を命で支し A はで 豫」 上? 定证 ヴ 配出 鰛 提 布を松う來き本を情景各な肌は布をは K 備"P海沿 依中门。 楽し ---夫もり井か 轉でた 平に感染面がり 軍;元智 人是來意人是 が ניי 於今c告;日告